

平成19年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	産業界のニーズに応じて入学当初から人間力強化を図る連携eラーニングシステムの開発と実施		
法人名	(社)東京都専修学校各種学校協会		
学校名			
代表者	会長 小泉 凱彦	担当者 連絡先	有我明則(ありが あきのり) TEL 03-3378-9601

1. 事業の概要

産業界では若者の人間力の低さが業務の質を低下させ、高い離職率に繋がる事態を招いている状況とされる。本事業では、この実態の精査により、就職時に必要な人間力の要件を明らかにし、それらを目標として入学当初から就職までの期間で人間力を強化するロードマップの作成を行った。また、学校間の連携を促進するeラーニング基盤の構築およびeラーニングコンテンツの開発を推進した。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

本事業では、人間力を強化するeラーニングシステムの開発と実施が目標であったが、当初の目標どおり遂行された。専門学校入学前後の学生を対象としたコンテンツ開発でき、実証実験でも高い評価を受けた。

②事業により得られた成果

本事業の直接的な成果は、eラーニングコンテンツと連携eラーニング基盤である。コンテンツは社会常識(一般知識分野)2タイトル、対人関係(社会人としての話し方)、業務常識(職場のマナー)はそれぞれ1タイトルの合計4タイトルを制作した。eラーニング基盤については、オープンソースソフトウェアに対して機能追加をし、モチベーションの向上に必要な機能を実現した。

また、調査に関しては、行政・業界・学校関係において、数多くの人間力に関する取り組みがなされていると把握できたこと、IT分野および介護福祉分野に就業状況や満足度についてのアンケートを行い、現在の専門学校卒、大学卒の意識には大きな差異がないことを把握することができた。

③今後の活用

今年度の事業は、eラーニング基盤の構築およびモデル的なeラーニングコンテンツの開発を行うことによって、次年度以降の展開を行うための準備と位置づける。今後どのようなコンテンツを開発、調達するかについて検討を進めるとともに、ビジネス能力検定や社会人常識能力検定に対応した試験対策コンテンツの開発へとつなげることを検討したい。

④次年度以降における課題・展開

本年度の人間力強化を目指したコンテンツは、入学後のビジネス能力検定や社会人常識能力検定合格を見据え、入学前からの継続した学習を促すことができ、早くからeラーニングを活用した学習習慣を身につけさせることにもなる。なお、入学後については、パソコンだけではなく、携帯電話をも使用した試験対策が可能なコンテンツ開発に関して検討を進める。

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

専門学校生と入学前の高校生の間人強化のeラーニングシステムを構築するために、IT分野および介護・福祉分野についてインターネットリサーチを実施した。また、行政・業界・学校関係における人間力に関する取り組みについて情報整理を行った。

インターネットリサーチではIT分野と介護・福祉分野ともに専門学校生と大学生で、学歴による大きな差は見られない結果となった。

(1)IT分野

仕事に満足している理由として挙げられている回答は、専門卒が「特に不満がないから」「自己裁量でできるから」「待遇が良いから」であった。大学卒は、「特に不満がないから」「やりがいのある仕事だから」「給与が良いから」であり、両者ともほぼ同じ理由を挙げている。一方、不満の理由として挙げられているのは、専門卒、大学卒ともに「給与が良くないから」であり、回答が集中している。専門卒が大学卒よりも優れていると思われる点は、「学歴は関係ない、特にない」「専門知識」「専門技術」であり、劣っていると思われる点は、「学歴は関係ない、特にない」「給与・待遇」「学歴」「一般教養」となっている。

(2)福祉分野

満足している理由として挙げられている回答は、専門卒が「人間関係が良い」「環境が良い」「やりがいのある仕事だから」であった。大学卒は、「人間関係が良い」「自分に合った仕事だから」であり、両者とも人間関係の良さが満足度に影響している。一方、不満の理由として挙げられているのは、専門卒、大学卒ともに「給与が良くないから」であり、給与の悪さが不満度を高めている。専門卒が大学卒よりも優れていると思われる点は、「専門知識」「学歴は関係ない、特にない」「即戦力」であり、劣っていると思われる点は、「学歴は関係ない、特にない」「給与」「一般教養」「学歴」となっている。

人間力に関する取り組みは、産業界において「人間力」と一般に称されている能力は、文部科学省で「人間力」、厚生労働省では「就職基礎能力」、経済産業省では「社会人基礎力」として、各種の施策が推進されている。

②コンテンツの開発

本年度事業では、連携eラーニング基盤の上でeラーニングコンテンツを開発し、安定的な運用が可能なeラーニングシステムを構築した。当協会では、専門教育への導入時期にあたる専門学校入学前後の学生を対象としたコンテンツ開発に重点を置いて事業を推進した。ここでは、専門学校入学前後の学生に対し、人間力強化のための知識習得を図るためのコンテンツを開発するのではなく、むしろその必要性を理解させ、モチベーションを喚起させることを目的としたeラーニングコンテンツとした。

専門学校入学前後の学生を対象とする人間力の強化をする領域をロードマップで示し、3領域13分野45項目とした。さらに、それぞれの分野に対応するコンテンツを配置した上で、人間力強化のためのモチベーションを向上させるために最も優先度の高い分野を選定した。

最終的に、選定した項目から、社会常識(一般知識分野)2つ、対人関係(社会人としての話し方)、対人関係(職場の人間関係)、業務常識(職場のマナー)、業務常識(接待マナー)、業務常識(交際業務)のそれぞれ1つの合計7つのシナリオを作成し、その内優先度の高いもの4つをeラーニングコンテンツ化した。

③実証講座

開発したeラーニング基盤モデルおよびeラーニングコンテンツを運用し、eラーニングコンテンツの内容構成やレベル、操作性、機能などの評価をするために、以下に示す内容で実証講座を行った。

<東京会場>

日 時 平成20年3月5日(水) 14:45～16:00

会 場 学校法人神田外語学院 本館

対象者 専門学校入学前の高校生(4名)

<千葉会場>

日 時 平成20年3月6日(木) 9:00～10:30

会 場 学校法人秋葉学園千葉情報経理専門学校

対象者 千葉情報経理専門学校 経営経理科1年次(8名)

千葉情報経理専門学校 DTPデザイン科1年次(2名)

大学入学前の高校生(3名)

受講者アンケートの結果から、ほとんどの受講者がeラーニングを活用した学習に対して好印象を持ち、今後も利用したいという高い評価を得た。対象となる専門学校生や入学予定者が興味を持続することができるコンテンツやシステム基盤のモデルが開発できたと言える。

また、静止画タイプおよび動画タイプのコンテンツを比較する方式で実証を行ったが、対象者が興味を持ち、理解をする上で、今回開発した静止画を工夫して使った構成が最も有効であることが分かった。静止画の評価が高い一方で、動画の評価も低くはなかった。

Moodleを用いたeラーニング基盤モデルに対しては、細かな機能面での要望もあり、その意味で本格的に運用する際に要求される機能や操作性の充実については有効な知見を入手できた。

④その他

本事業では、専門学校が共通の基盤を共有することによって、今後の教育高度化を図る有力な道具としてのeラーニングを積極的に活用できる環境の実現化を目指している。そのため、システムやコンテンツを単に開発・制作するだけではなく、それぞれについて、活用の拡大を図ることができるようにモデル化を行っている。その意味で、このようなモデルを活用すれば、eラーニングを導入する際の敷居も低くなることが期待できる。